

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

担当エリアは富岡第二地区と金沢シーサイドタウン地区はそれぞれに65歳以上の人口割合が増え、今後急速に高齢化が進行する見込みである。介護予防、ロコモ予防等の取り組みは引き続き重要であるが、それでも地形や住居の制約、疾患等から移動が困難になり、地域社会から孤立する方が増えるリスクが高い地域であると思われる。
地域支援の担い手の発掘と見守りを兼ねた気軽に立ち寄れる居場所を各地区につくっていくことが必要であると思われる。

☐ 今年度の重点的な取組

新規
継続

—具体的な取組内容—

☐	☒	エリア内の誰もが気軽に立ち寄れる場所に、地域住民の居場所となる拠点を、住民主体で継続的に設置できるよう調査、交渉を行っていく。
☐	☒	毎月の会議等で地域課題について情報交換を行い、地域ケア会議の議題として適切なケースを検討する。
☐	☒	包括だけでなく、地域交流・生活支援も含めた5職種と所長が毎月定例の区とのケースカンファレンスに参加し、地域の課題について個別ケースと地域全体の視点から検討する。
☐	☒	施設利用団体だけではなく、様々な来館者や地域の会議などに出席した際にもコミュニケーションを積極的にとり、地域ニーズの把握に努める。
☐	☒	基幹相談支援センターや後見の支援室等との連携事業を通じて、高齢化していく障害者の権利擁護につなげていく。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

身体機能や認知機能の低下、住民同士の活動や交流を図れるような地域住民のニーズを踏まえ、ケアプラザ、地域も様々な行事・事業が活発な取り組みができました。
年々、介護相談の新規も増えており、地域の急速な高齢化が進んでいることを実感しています。
ケースカンファレンスに全職種で参加し、地域の個別ケースから新たな課題を見つけて事業に結び付けていくことを心掛けてきました。地域の中で孤立している独居や夫婦のみの高齢者、ケアプラザで行っている事業等に参加しない、できない高齢者へどんな事業に参加したいと思えるかを検討する必要があることなどさまざまな課題を今後の事業につなげていきたい。

☐ 区からのコメント

今年度も身体機能や認知機能の低下を防ぐための様々な事業を工夫して行っていました。
部門でバラバラだったものを「ケアプラザだより」として一つにまとめて事業を発信することで、広報を見て事業に参加する方も増えつつあります。地域資源の活用や民間事業者との連携により、幅広い事業展開や取り組みを行っていただきました。情報ラウンジの活用方法の見直しを行いリニューアルし、子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる取組も行っていました。介護者同士で交流する機会を提供されたり、協力医とケアマネジャーの座談会開催など、富岡東地域ケアプラザ独自の取り組みをされています。